

まほうのおみそ汁

徳島県徳島市千松小学校 五年 坂東亜美

おみそ汁、それは我が家では夕食と朝食で欠かせない一品である。今は大好きだが、前はあまり好きではなかった。

我が家のおみそ汁にはいつもおばあちゃんの家で収穫された野菜が何種類も入っている。野菜が嫌いというわけでもない私たち姉妹だったが、食べやすいように小さめに切られている。毎日毎日暑い日でも出されるので、嫌いというよりは飽きていた。野菜を食べさせたいただけなのだろうと思っていた私は、ある日母に言った。

「野菜は他でいっぱい食べているからおみそ汁はいらない？」

これでおみそ汁はなくなるだろうと思ったが、母は違った。

「おみそ汁は野菜を食べるためだけでないよ。おみそを食べるほしから。」

私はびっくりした。私は小さい頃からお肉の食感が苦手でほとんど食べることができない。母はそんな私にお肉に代わるもので栄養を取ってほしいと「畑のお肉」と言われる大豆、おみそを食べさせてくれたのだ。嫌がる私にお汁だけでも飲ませていた理由が分かったしゅんかん、今まで知らなかった自分はずかしいと思うと同時に母の愛情を感じた。私は、その日からどんなに食よくなくてもおみそ汁だけは飲むようにしている。

他の家でおみそ汁を飲むと、おいしかったが母が作ってくれたおみそ汁の味と何だか違う。おふくろの味として肉じゃがや卵焼きなどを聞いたことがあるが、おみそ汁もその一つであり、家族の味になっているのではないかと思う。

私もおみそ汁を作ってもらえばかりではなく、いつか母に作り方を教えてもらって、家族の味をひきついでいきたいと思う。おみそ汁は、みんなを幸せにしてくれるまほうの一品だ。